

2018年度活動報告 CJP授業 : インディペンデント スタディ 文法・読解2・3

著者	蔭山 拓, 郷矢 明美, 中野 陽
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	9
ページ	41-41
発行年	2020-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/00028533

2018 年度活動報 CJP 授業： インディペンデントスタディ 文法・読解 2・3

蔭山 拓・郷矢 明美・中野 陽
(関西学院大学日本語教育センター)

1. クラス概要

本クラスは秋学期に日本語レベル 2（初級後半）ならびにレベル 3（中級前半）を終了した学習者を対象とする。今学期の受講生は①②クラス併せて 9 名（前者 3 名、後者 6 名）であった。クラス目標は「文法・読解について自分で学習目標を設定し、そのための学習計画を立て、実行できるようになる」である。1 週間のコマ数は 3 コマで、使用教材は教師と相談の上、必要に応じて各受講生が準備することとした。

2. 授業内容

初日に「読む」「書く」に関して半年後の留学終了時の目標を踏まえた上で、冬学期の学習目標を立てた。今回実際に設定された学習目標は、レベル 3 に入りたい、レベル 5 にスキップ（飛び級）したい、N3 の文法や語彙をマスターしたい、（辞書なしで）小説・新聞を読みたい／読めるようになりたい、新しい学習方法を知りたいといったものであった。そして、教師と相談しながら、その目標を達成するために 1 週間ごとに学習計画を立て、実行した。基本的に学習時間内の活動は「学習ノート」に書き込み、毎回の学習記録とした。

また、1 週間に 1 回振り返りの時間を設けた。この時間は 1 週間の学習の成果（どんな方法で何をしたか、やってみて気づいたこと・感じたこと）を報告し、教師や他の受講生との意見交換を行った後、次の 1 週間の学習計画を検討した。最終日には冬学期全体の振り返りも行った。

3. 成果と今後の課題

学期末アンケート結果は、いずれのクラスでも大半が「この授業に満足している」と回答していた。本クラスにおいては、受講生の目標は明確であったが、目標達成のために自律的に計画し実行したことは時として受講生のレベルにそぐわないものであったようだ。ただ、振り返りの時間を通して、教師やレベルの異なる受講生からも新たな学習方法やリソースを知ることができ、自分の学習計画を修正することができたと数名から回答があった一方で、学習目標やレベルが異なる受講生同士での振り返り作業は困難だったという意見もあり、振り返りの方法については課題が残った。